

2023年12月24日

待降節第4主日

菊地功大司教 メッセージ

まもなく主の降誕のお祝いです。今年は24日が日曜となったため、待降節第四週は一日で終わってしまいます。今日の福音は、天使によるお告げの部分ですが、神の一人子が人となりわたしたちと共にいてくださるためには、聖母の強い信仰と謙遜さが不可欠であったことを教え、またわたしたちがそれに倣うようにと勧めています。

マリアは「私は主のはしためです。お言葉通り、この身になりますように」という言葉を持って、神の母となりました。天使ガブリエルからのお告げに対して、マリアは「どうしてそのようなことがあり得ましようか」と言う、強い否定の言葉を口にします。そこにはこの理不尽な出来事に対するマリアの困惑の度合いが感じられます。しかしマリアは、「神に出来ないことはなに一つない」と言う天使の言葉に信頼を置き、神の計画にその人生をゆだねることを決意します。

聖母マリアの決断は、この世界を支配しているのは人間ではなくて、世界を創造された神であるという、明確な謙遜の態度と信仰における確信に基づいています。

この世界を支配しているのは一体誰なのか。現代社会は大きな思い違いをしています。世界を支配するのは人間の知恵と知識ではなく、創造主である神であり、わたしたちは常にその計画の中で生かされているのだという事実を忘れ、あたかもこの世界のオーナーであるかのように振る舞っています。その結末が環境の破壊であり、いのちへの暴力的な攻撃です。聖母マリアがお告げを受けたその地、聖地は、いま暴力によって支配され、神の賜物であるいのちが暴力的に奪われる不正義が横行しています。その世界に対して、聖母マリアはご自分の人生を通じて、この世界を支配するのは創造主である神であることを明確に宣言しています。

聖母マリアに倣い、神の計画の実現のために身を委ね、その実現のために行動することが、わたしたちには求められています。それはわたしたちも聖母マリアのように、「神に

出来ないことは何一つない」という信仰に生きているからに他なりません。平和を諦めてはなりません。

聖母マリアがその胎にイエスを宿したように、教会も、主ご自身が「世の終わりまでいつもあなた方と共にいる」と言われた約束を信じ、教会にキリストが共におられ、歩みを共にしておられることを信じています。